

平成 27 年度メディア芸術連携促進事業 連携共同事業

「第 4 回マンガ翻訳コンテスト」
実施報告書

デジタルコミック協議会

平成 28 年 2 月

目次

第1章 事業概要	3
1.1 第4回マンガ翻訳コンテストについて	3
第2章 事業の目的、趣旨	4
2.1 マンガ翻訳コンテストの目的、趣旨	4
2.2 過去実績	4
第3章 実施体制	7
3.1 実施体制図	7
3.2 審査員紹介	8
3.3 シンポジウム登壇者紹介	9
3.4 協賛社紹介	10
第4章 実施スケジュール	11
4.1 マンガ翻訳コンテスト実施プロセス及びスケジュール	11
第5章 実施内容	12
5.1 応募状況	12
5.2 授賞式について	14
5.3 シンポジウムについて	15
5.4 課題作品	16
5.5 授賞式、シンポジウム概要	17
第6章 広報、広報制作物	18
6.1 公式サイトの紹介	18
6.2 プレスリリース	21
6.2 チラシ	22

目次

第7章 成果	24
7.1 まとめ	24
7.2 アンケート集計	25
7.3 アンケートコメント	26
7.4 総括	31

第1章 事業概要

1.1 第4回マンガ翻訳コンテストについて

デジタルコミック協議会主催の元、全体運営を日本のマンガやアニメ、音楽などのエンターテインメントコンテンツを海外に発信する Tokyo Otaku Mode Inc.（以下、TOM）と、日本のマンガの魅力を国内外に向けてプロモーションする「MANGAPOLO」プロジェクトを展開する株式会社 電通が共同で実施。

出版社をまたいで課題作品を3作選出し、それぞれ指定ページの翻訳を募集した。プロ・アマ問わず応募可能とし、プロのマンガ翻訳者を始めとする審査員による採点で優秀者を表彰した。

また、同コンテストに関する情報を TOM の Facebook を中心に国内外に広く情報発信したほか、マンガ翻訳の重要性を啓蒙（けいもう）することを目的としたシンポジウムを授賞式と併催する形で、平成28年2月24日（水）に東京・秋葉原にて実施した。

第2章 事業の目的、趣旨

第2章 事業の目的、趣旨

2.1 マンガ翻訳コンテストの目的、趣旨

日本マンガを翻訳する優秀な翻訳者の発掘と海外における日本マンガの正規版流通促進を目的として、デジタルコミック協議会の主導により実施してきた。

4回目となる今回も、コンテストに関する情報を TOM の Facebook を中心に国内外に広く情報発信したほか、マンガ翻訳の重要性を啓発することを目的としたシンポジウムを授賞式と併催する形で実施した。

2.2 過去実績

第1回 大賞 チョコレートコスモス (春田なな) Shana Shimizu 氏
翻訳完了し、VIZ-select より配信中。(1巻～続巻、順次配信中)

<http://www.viz.com/manga/digital/viz-select> (日本国内から購読不可)

第1回 作品優秀賞 神童 (さそうあきら) pinkie-chan 氏
Crunchyroll Manga にて配信中

<http://www.crunchyroll.com/comics/manga/shindo/volumes> (日本国内から購読不可)

第1回 作品優秀賞 COPPELION (井上智徳) Amanda Haley 氏
Crunchyroll Manga にて配信中

<http://www.crunchyroll.com/comics/manga/shindo/volumes> (日本国内から購読不可)

同じく Crunchyroll Manga で配信中の「GTO パラダイス・ロスト」の翻訳も手がけている。

第2回 大賞 恋とは呼べない (町屋はとこ 榎田 尤利) Sarah Kim Perry 氏
配信準備中

第3回 作品優秀賞 いばらの冠 (神尾葉子) Casey Loe 氏
VIZ-select より配信中。(1巻～続巻、順次配信中)

<http://www.viz.com/manga/digital/viz-select> (日本国内から購読不可)

第2章 事業の目的、趣旨

また、以下の URL から、過去の受賞者へのインタビューを視聴できる。

<http://goo.gl/crPXsJ> (Shana Shimizu 氏)

<http://goo.gl/RvWxFd> (Sarah Kim Perry 氏)



・昨年度シンポジウムの様子



・昨年度会場の様子①

第2章 事業の目的、趣旨



・昨年度授賞式の様子②



・横田理事長の御挨拶



・審査員講評

マンガ翻訳の重要性を啓発すること、そして日本のマンガを世界へ広く普及することを目的とした「マンガ翻訳コンテスト」は今年度で4回目。

過去、9人ものコンテスト受賞者をマンガ翻訳家として、デビューさせ、育成してきた。

第3章 実施体制

3.1 実施体制図

主催：文化庁、デジタルコミック協議会

※本コンテストは、平成27年度文化庁メディア芸術連携促進事業における連携共同事業として採択された。

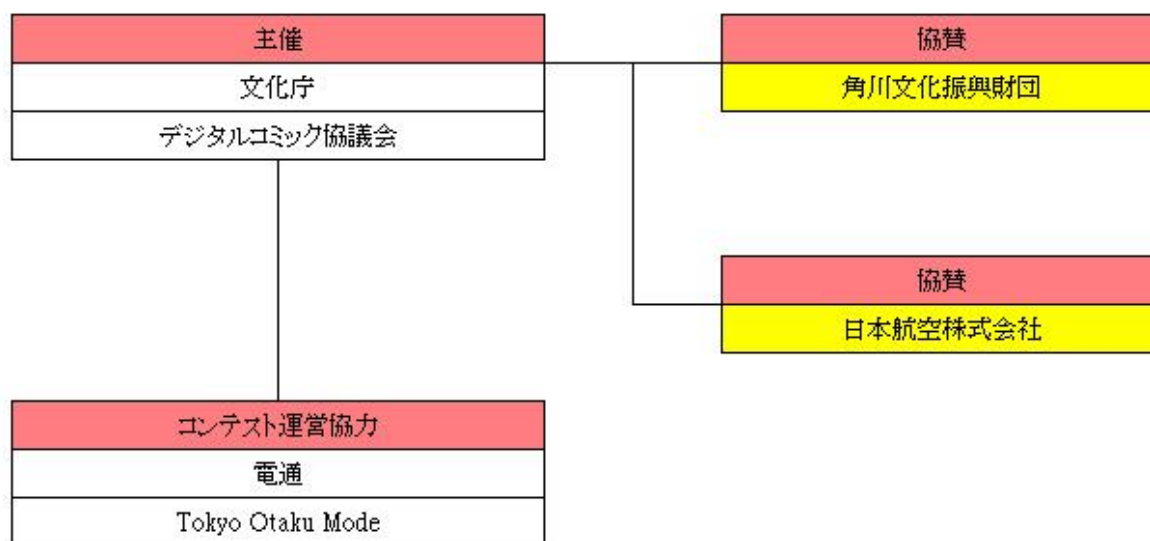
協賛：角川文化振興財団、日本航空株式会社

コンテスト運営協力：株式会社 電通 / Tokyo Otaku Mode Inc.

※協賛のJAL様にはマンガ翻訳コンテスト大賞受賞者への渡航チケット提供を頂く。

※協賛の角川文化振興財団様には受賞者の翻訳費用の負担を頂く。

【MTB Vol.4】組織図 ※敬称略



3.2 審査員紹介



Debora Aoki

(MangaComicsManga.com 編集者)

漫画ライター。

日本のアニメや文化を世界に紹介するウェブサイト

「アニメニュースネットワーク」など様々なメディアで、

日本のマンガに関する記事を執筆している。

Matt Alt

(翻訳家)

漫画翻訳家。

『ドラえもん』『ドロヘドロ』『ぬらりひよんの孫』などの作品を翻訳している。



William Flanagan

(マンガ翻訳家)

マンガ編集翻訳家。

『ポケモン』や『セーラームーン』
『Fairy Tail』などの作品を翻訳している。



3.3 シンポジウム登壇者紹介

ロバート・ニューマン Robert Newman (Crunchyroll, Inc.)

1981年生まれ、アメリカ・コロラド州ボルダー出身。大学で人類学と日本語を学び、2000年に初来日。日本のゲーム業界で働いたのち、2010年、凸版印刷傘下の株式会社ビットウェイに入社。漫画の海外促進を目指すプロジェクト『JManga』にデジタルコミック協議会とともに取り組む。その後、日本のアニメやマンガなどのコンテンツを世界中に配信する、グローバル配信サービスCrunchyrollを運営するCrunchyroll, Inc.に勤務。主に漫画のライセンスとマーケティングを担当する。

清水 正明 (しみず まさあき)

1975年生まれ、東京都出身。1997年慶応義塾大学卒業後、凸版印刷(株)に入社し、インターネット、パッケージメディア、WAP、デジタル放送などのデジタルメディア関連の事業開発やサービス企画に携わる。2006年に南カリフォルニア大学修士課程を修了後、海外向け電子コミックの配信会社、ジェイマンガ(株)を凸版印刷の関連会社として設立し、取締役就任。2013年11月からは(株)スクウェア・エニックスのデジタル出版部にて海外向け電子コミック配信の事業開発を統括。これまでに英語、韓国語、中国語の翻訳版延べ250タイトルを配信。今後も配信タイトルと配信言語の拡大を目指す。

海部正樹 (株式会社 WOWMAX 代表取締役社長)

1959年生まれ、愛知県出身。

TBS、WOWOWを経て2003年にアメリカ・ロサンゼルスでコンテンツ分野に特化したマーケティングと翻訳ローカライズ会社Wowmax Media LLCをスタート。2014年に株式会社化し商号をWOWMAXに変更。マンガ、小説の出版翻訳とアニメの映像翻訳サービスを提供するとともに、日米のメディアや企業、政府、地方自治体など多様な組織とコンテンツ事業を開発推進するコンサルティングとプロデュースを展開している。日米共同制作アニメ企画への制作投資や海外販売を行った経験も生かしジェトロ(日本貿易振興機構)の「米国コンテンツ市場調査」を2008年以降一貫して担当。また、デジタルコンテンツ協会の「デジタルコンテンツ白書」海外市場・米国の項も2004年より連続して執筆。

3.4 協賛社紹介



JAPAN AIRLINES

今年度は、日本航空株式会社（以下、JAL）に御協賛を頂き、マンガ翻訳コンテスト大賞受賞者への渡航チケットを御提供頂いた。デジタルコミック協議会からはイベントリリースや、各告知物でのJAL様ロゴの露出や、当日会場などでの企業紹介を提供した。

角川文化振興財団

昨年度に引き続き、角川文化振興財団に御協賛頂いた。

角川文化振興財団には、受賞者が対象作品を翻訳する際の、翻訳費用の一部負担などの提供を頂く。

第4章 実施スケジュール

4.1 マンガ翻訳コンテスト実施プロセス及びスケジュール

■コンテスト実施プロセスと成果

平成27年7月～8月

コンテストの詳細検討

課題3作品と審査員の選定を行い、今後のコンテスト実施スケジュールを決定。

平成27年8月31日～11月7日

翻訳作品の募集

公式ウェブサイト上で翻訳作品を募集し、プロ・アマ問わず100件以上の応募があった。

平成27年10月8日～10月11日

コンテストの告知

アメリカで開催された New York Comic Con *1 にてチラシを配布し、コンテストへの応募を呼びかけた。(御協力：VIZ Media、Kodansha USA Publishing)

*1 アメリカ東海岸で最大規模を誇るポップカルチャー・イベント。アニメ、ゲーム、コミック、映像など、展示ジャンルは多方面にわたり、各界から多くの著名人も訪れている。

平成27年10月

コンテストの告知

専門学校など、約100施設へメールでチラシを送付し、コンテストへの応募を呼びかけた。

平成27年11月8日～12月21日

応募作品のスクリーニング

応募作品の第一次審査及び審査員による選考を行い、最終作品候補を選考した。

平成28年2月2日

作品優秀賞・大賞の発表

審査員3名による協議の上、課題作品ごとに「作品優秀賞」を選出し、作品優秀賞3作品の中から「作品優秀賞・大賞」1作品を決定した。

平成28年2月24日(水)

授賞式・シンポジウムを開催。

第5章 実施内容

5.1 応募状況

国	数
United States	40
Japan	26
Canada	7
Singapore	6
United Kingdom	6
Philippines	4
Germany	3
Indonesia	3
Australia	2
Austria	1
Belgium	1
Chile	1
Russia	1
Slovenia	1
South Korea	1
Spain living in Japan	1
Thailand	1
the Netherlands	1
Total	106

各国の応募状況では、アメリカからの応募が最多。100件を越える応募となった。応募地域は、昨年同様、特に北米の方々からが多かったのが特徴的。

第5章 実施内容

翻訳経験	数
No	56
Yes	50

翻訳経験有無に関しては、ほぼ半々という結果だった。

応募タイトル	応募数
蝶のみちゆき	16
いまどきのこども	37
会社の奴には絶対知られたくない	53

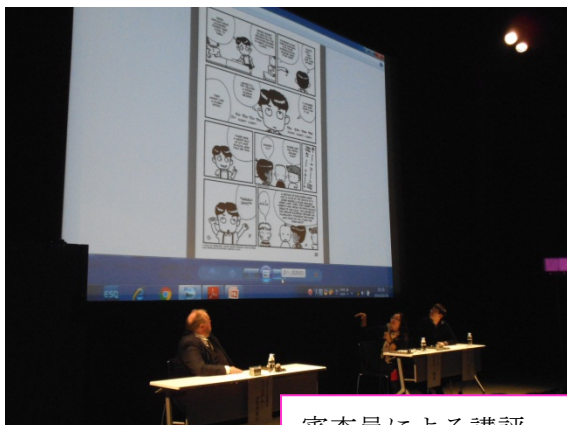
応募タイトルは「会社の奴には絶対知られたくない」が約半数を占めて最多となった。

「蝶のみちゆき」は日本独自の描写が多く、他作品より翻訳の難易度が高かったと思われる。

各国の応募者からの作品を一時スクリーニングにかけ、8作品の最終候補を選出。

対象の8作品を、翻訳コンテスト審査員3名により最終審査。3名の受賞者を決定した。

5.2 授賞式について



審査員による講評



玖保キリコさん祝福メッセージ



大賞受賞者のモニック・マーフィーさん



■授賞式 (19:00-19:35)

①開会の挨拶

デジタルコミック協議会・横田理事長の挨拶を頂き開始。

②対象作品の紹介

対象作品3作品を、司会者より動画を交えて紹介

③受賞者の発表

各作品の優秀賞2作品を発表後、大賞受賞者の発表。各作品の作者からの祝福のコメントも紹介。審査員もそれぞれの翻訳についてどの点が良かったかなど、マンガの場面をスクリーンで見せながら、具体的に紹介していた。

④授賞式

大賞受賞者には、ステージにて横田理事長より賞状とアップルウォッチの贈呈を行った。今回はこのコンテストで初めて、大賞受賞者がアメリカより来日した。

⑤閉会の挨拶

文化庁文化部芸術文化課・加藤課長からの閉会の挨拶で授賞式を終了。

・ 5.3 シンポジウムについて



登壇者による講演



会場の様子

■シンポジウム（19:35-21:00）

①モデレーターとパネラーの紹介

授賞式の司会者からモデレーターへ引き継ぎ3名のパネラーを紹介。

②講演

3名のパネラーが、各15分ずつ講演データを交えて講演した。

講演では、マンガが海外に配信される流れや、海外配信する際の苦労話など、具体的な翻訳事例が紹介された。また、パネラー同士の議論も白熱したり、パネラーのユーモアにより、会場から笑いが起こる場面も見られ、結果として、第7章にあるように満足度の高いシンポジウムとなった。

③シンポジウムのまとめと質疑応答

モデレーターの主導で、シンポジウムの総括と質疑応答を行った。

5.4 課題作品

- ① 『蝶のみちゆき』（作：高浜寛／リイド社）
- ② 『会社の奴には絶対知られたくない』（作：若竹アビシ／日本文芸社）
- ③ 『いまどきのこども』（作：玖保キリコ／小学館）

以上、合計3作品を対象作品とした。

■応募総数・・・106件

■審査結果

・作品賞（3作品）

『蝶のみちゆき』

Ronald Classman

『会社の奴には絶対知られたくない』

Jennifer Ward

『いまどきのこども』

Monique Murphy

・大賞（1作品）

『いまどきのこども』

Monique Murphy

5.5 授賞式、シンポジウム概要

■授賞式&シンポジウム

- ・開催日時：2016年2月24日（水）

授賞式：19:00～19:35

シンポジウム：19:40～21:00

- ・会場：秋葉原 UDX ビル・シアター会場

■授賞式登壇者

- ・開会の挨拶：デジタルコミック協議会 横田清事長
- ・総括：Matt Alt 氏（審査員）
- ・各賞へのコメント：Deb Aoki 氏（MangaComicsManga.com 編集者）
- ・閉会の挨拶：文化庁 文化部芸術文化課・課長 加藤 敬氏

■シンポジウム登壇者

- ・司会：脊山麻理子氏（フリーアナウンサー）
- ・登壇者：ロバート・ニューマン様（Crunchyroll）
清水正明様（スクウェア・エニックス）
海部正樹様（Wowmax）
椎名ゆかり様（翻訳者／東京藝術大学非常勤講師）

第6章 広報、広報制作物

6.1 公式サイトを紹介

公式ウェブサイト

https://www.otakumode.com/sp/mtb_fourth/

以下参照。

Supported by 

Announcing The WINNERS

The Digital Comic Association presents

Manga Translation Battle

Supported by Japan's Agency for Cultural Affairs

About the Contest

Translate Manga, Win a Trip to Japan!

The Manga Translation Battle is the only official Japanese manga translation contest presented by the Digital Comic Association. The contest is managed by MANGAPOLD with the full support of Japan's Agency for Cultural Affairs.

First Prize winners for each work will be selected in early February 2016. All winning translators will receive job offers to translate the manga series from their entries, plus the opportunity to debut as a professional translator, and various other wonderful prizes! A single Grand Prize winner will be selected to receive all of the above, plus an invitation to attend the award ceremony in Tokyo, with a free plane ticket! [\(Supported by JICA\)](#)

• [Click here to see the winning translations from last year.](#)

Awards Ceremony and Symposium

Date: February 24th, 2016

Time: First Part (Awards Ceremony) : 19:00 (Doors Open: 18:30) - 19:30
Second Part (The Symposium) : 19:30 - 21:00

Venue: Auditorium, Roppongi Academy Hills 45F, Tokyo, Japan

Anyone and everyone is welcome!

• [Click here to RSVP](#)

The Final Results

Grand Prize



The children Nowadays ONE
Monique Murphy
from U.S.A.

• [Quotes From the Judges](#)

[Read](#)

[View](#)

First Prize



Cho-no-Michiyuki
Ronald Glassman
from SAITAMA

• [Quotes From the Judges](#)

[Read](#)

[View](#)

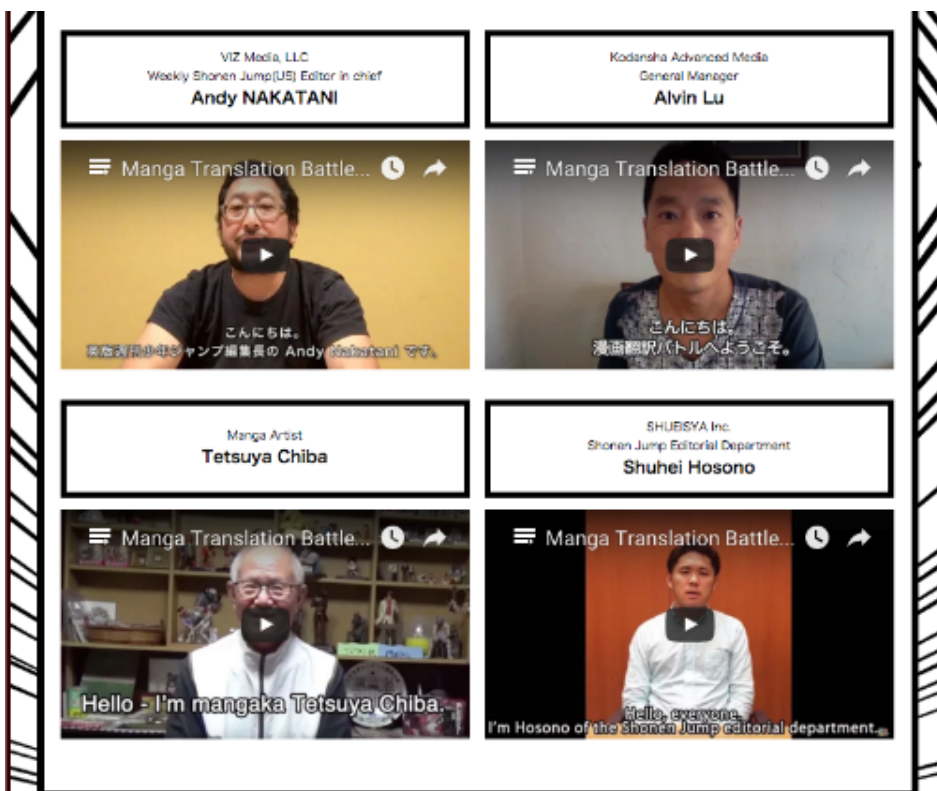


The Walking Pigs
Jennifer Ward
from Canada

• [Quotes From the Judges](#)

[Read](#)

[View](#)



Judging Committee



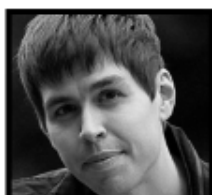
Deb Aoki

Deb Aoki has been writing about manga professionally since 2006, but is also a lifelong manga reader who has many happy memories reading Nakayoshi when she was in grade school. From 2006-2013, she was the Manga Editor for About.com. She is currently the editor of MangaComicsManga.com, a site devoted to manga and comics from around the world. She is also a contributing writer for Publishers Weekly. Deb lives in California, in the San Francisco Bay Area and regularly writes about comics events throughout North America, and occasionally Japan.



William Flanagan

William (Bill) Flanagan started translating manga professionally in 1991 with Raika (Kaumi Fujiwara & Yu Terashima) and has been translating and editing manga ever since. He rose to be Director of Editorial of Viz Media in the early 2000s and from then on, has had his hand in top-selling manga. He also translates anime, games, TV, movies and novels. Representative manga translations include Alice in Murderland (Kaori Yuki), Fairy Tail (Hiro Mashima), and A Bride's Story (Kaoru Mori). He lives with his wife a son in the mountains of Gifu Prefecture, Japan.



Matt Alt

A native of Washington, D.C., Matthew has been working as a professional translator since the early 1990s. Together with Hiroko Yoda he is the co-founder of AltJapan Co., Ltd., a dedicated entertainment localization company that has produced the English versions of many top video games, toys, and manga, including the

第6章 広報、広報制作物

※今年度は、プロモーション施策として、公式WEBサイト上に、有識者からマンガ翻訳をテーマにメッセージ動画を掲載。

6.2 プレスリリース

The image shows a two-page press release for 'Manga Translation Battle Vol.4'. The left page is the main announcement, and the right page contains details about the contest and sponsors.

報道関係者 各位、

2015年10月18日
デジタルコミック協議会

Manga Translation Battle Vol.4 募集開始！！

日本のマンガは、いま世界中で「MANGA」として親しまれるようになりました。そして、その躍進を支えているのが、「マンガ翻訳家」です。マンガ家が、魂を懸けて作り上げた作品も、翻訳がきちんとなされなければ、世界の読者には届きません。日本の文化的財産であるコミック、マンガ文化のデジタル化を促進し、全世界に向かって、著作者とともにデジタルコミックの普及を推進することを目的とする団体であるデジタルコミック協議会は、「Manga Translation Battle」を通じて、マンガ文化のもう一人の主役とも言える、マンガ翻訳家を志望する人々に、プロデビューのきっかけを考えたいと考えています。2012年に始まったこのコンテストは、世界で唯一の出版社公認のマンガ翻訳コンテストです。過去3回の受賞者の中には、すでにプロの翻訳家として活躍を始めた方もいます。

第1回 大賞 チョコレートコスモス (夢田みな) Shana Shimizu 氏
新巻光し、YIZ-selectより第1巻、既録中。 (巻以降、順次既録)
<http://www.viz.com/manga/digital/viz-select> (日本国内から既録不可)

第1回 作品優秀賞 神童 (さやあきら) pinkie-chan 氏
Crunchroll Mangaにて既録中
<http://www.crunchroll.com/comics/manga/shinko/syanga> (日本国内から既録不可)

第1回 作品優秀賞 COPPELION (井上智樹) Ananda Haley 氏
Crunchroll Mangaにて既録中
<http://www.crunchroll.com/comics/manga/shinko/syanga> (日本国内から既録不可)
同じくCrunchroll Mangaで既録中の「切羽 パラダイス・ロスト」の翻訳も手がけている。

第2回 大賞 恋と叫べない (町屋はこ 櫻田 光利) Sarah Kim Perry 氏
既録準備中

第3回 作品優秀賞 いばらの恋 (神尾篤子) Casey Lee 氏
YIZ-selectより既録予定
<http://www.viz.com/manga/digital/viz-select> (日本国内から既録不可)

また、こちらのURLから、過去の受賞者へのインタビューもご覧いただけます。
<http://goo.gl/orPKSj> (Shana Shimizu 氏)
<http://goo.gl/RwWfFd> (Sarah Kim Perry 氏)

コンテスト概要
日本語→英語への翻訳を対象とします。..
締め切り 2015年 11月16日..
応募資格 プロ・アマチュアどなたでもご応募できます。..
第1次審査 プロ翻訳家による翻訳の差違しべルのチェック。..
最終審査 第1次審査通過作品は、Tokyo Otaku Modeのウェブサイト上に公開され、オフィシャル審査員による審査の対象となります。..
発表・授賞式 受賞者は2月上旬に発表され、大賞受賞者は、2月下旬期内で開催予定の、授賞式へのご招待と、前買としてApple Watchが授与されます。また、当該作品の翻訳者としてのデビューの運びが聞けます。..
応募概要
以下のウェブページから、Application Formをダウンロードし、対象作品の中からひとつを選んで、応募してください。..
http://otakumode.com/sp/mtb_fourth..
第4回となる今回は、バリエーション豊かな以下の3作品が、翻訳対象作品となります。..
いまどきのことも 玖保キリコ 小学館..
蝶のみちゆき 高浜寛 リイド社..
会社の奴には絶対知られたくない 香村アビシ 日本文芸社..
審査員
Deb Aoki マンガジャーナリスト..
William Flanagan マンガ翻訳者..
Matt Aito マンガ翻訳者..
マンガを愛し、翻訳を通じてマンガを世界へ届ける志をもった火山のかたがたの応募をお待ちしています。..
主催：文化庁、デジタルコミック協議会。
協力：文化庁メディア芸術コンテンツ・シニア編集事業。
コンテスト運営協力：MANGAPOLO (株式会社 電話) / Tokyo Otaku Mode..
※本コンテストは平成27年度文化庁メディア芸術創作振興事業における謝辞出回事業として採択されています。..
■本コンテストに関するお問い合わせ先。
メール：info@mangapolo.jp
電話：03-6216-8316..
担当： 稲井、中川。
文化庁
Agency for Cultural Affairs
Government of Japan

6.2 チラシ



シンポジウムテーマは「海外マンガ配信と翻訳の現状」

プロ・アマ問わず誰でも参加でき、マンガ翻訳の優秀者をプロの翻訳家を始めとする審査員による投票で決定するマンガ翻訳コンテスト、「Manga Translation Battle vol.4」。

マンガ翻訳家志望者の活躍の場を増やし、世界のより広い層に質の高い日本のマンガ文化を発信するプラットフォームとなることを目指して、今回で4回目の開催となります。今回の大賞受賞者を迎える授賞式と、出版・配信関係者及び翻訳関係者によるシンポジウムでは、マンガがより広く海外で読まれるためにはどうすればよいか、各社の取り組みの事例を紹介しつつ、海外でのマンガ配信と翻訳の現状を登壇者の方々に話して頂きます。

日時 2016年2月24日(水) 19:00~21:00(開場18:30)	シンポジウム パネラー ロバート・ニューマン Crunchyroll, Inc. 清水正明 株式会社スクウェア・エニックス 海部正樹 株式会社WOWMAX
場所 秋葉原UDX シアター	モデレーター 椎名ゆかり 翻訳者・東京藝術大学非常勤講師
定員 150名(事前申込制) [主催]文化庁、デジタルコミック協議会 ※本コンテストは平成27年度文化庁メディア芸術連携推進事業における連携共同事業として採択されています。 [協賛]角川文化振興財団、日本航空株式会社 [コンテスト運営協力]株式会社 電通 / Tokyo Otaku Mode	
参加申込 下記のURLよりお申し込み下さい。 http://www.mangapolo.jp/mtb/	

第6章 広報、広報制作物

プログラム (敬称略)

■ 翻訳コンテスト授賞式

司会 脊山麻理子 (フリーアナウンサー)

プレゼンター ウィリアム・フラナガン (翻訳家・編集者・コンテスト審査員)

マット・アルト (翻訳家・株式会社アルトジャパン)

デボラ・青木 (マンガジャーナリスト)

■ シンポジウム [海外マンガ配信と翻訳の現状] ※ 日・英 同時通訳有り

海外により多くのマンガを広めるためには、出来るだけ多く、出来るだけ早く、正規の流通、配信プラットフォームに、作品を掲載していくことが重要である。さらにマンガを愛し、十分な知識と技量を持った翻訳者による、良質な翻訳があつてこそ、(溢れる)海賊版に対し、読者の支持を得ることが出来るといえる。今回のシンポジウムでは、代表的なプラットフォームである Crunchyroll、さらに自ら海外配信を進めるスクウェア・エニックス、マンガ、書籍等の出版翻訳を手がける Wowmax、各社の取り組みの事例を紹介しつつ、翻訳の現場からマンガ翻訳におけるポイントなどを語ってもらう。

登壇者プロフィール

パネラー

ロバート・ニューマン Robert Newman (Crunchyroll, Inc.)

1981年生まれ、アメリカ・コロラド州ボルダー出身。大学で人類学と日本語を学び、2000年に初来日。日本のゲーム業界で働いた後、2010年、凸版印刷傘下の株式会社ビットウェイに入社。漫画の海外促進を目指すプロジェクト「JManga」にデジタルコミック協議会と共に取り組む。その後、日本のアニメやマンガなどのコンテンツを世界中に配信する、グローバル配信サービス Crunchyroll を運営する Crunchyroll, Inc. に勤務。主に漫画のライセンスとマーケティングを担当する。

清水 正明 しみず まさあき (株式会社スクウェア・エニックス)

1975年生まれ、東京都出身。1997年慶応義塾大学卒業後、凸版印刷(株)に入社し、インターネット、パッケージメディア、WAP、デジタル放送などのデジタルメディア関連の事業開発やサービス企画に携わる。2006年に南カリフォルニア大学修士課程を修了後、海外向け電子コミックの配信会社、ジェイマンガ(株)を凸版印刷の関連会社として設立し、取締役就任。2013年11月からは(株)スクウェア・エニックスのデジタル出版部にて海外向け電子コミック配信の事業開発を統括。これまでに英語、韓国語、中国語の翻訳版延べ250タイトルを配信。今後も配信タイトルと配信言語の拡大を目指す。

海部 正樹 かいふ まさき (株式会社WOWMAX 代表取締役社長)

1959年生まれ、愛知県出身。TBS、WOWOW を経て 2003年に米国ロサンゼルスでコンテンツ分野に特化したマーケティングと翻訳ローカライズ会社 Wowmax Media LLC をスタート。2014年に株式会社化し商号を WOWMAX に変更。マンガ、小説の出版翻訳とアニメの映像翻訳サービスを提供するとともに、日米のメディアや企業、政府、地方自治体など多様な組織とコンテンツ事業を開発推進するコンサルティングとプロデュースを展開している。日米共同製作アニメ企画への製作投資や海外販売を行った経験も生かしてジェトロ(日本貿易振興機構)の「米国コンテンツ市場調査」を2008年以降一貫して担当。また、デジタルコンテンツ協会の「デジタルコンテンツ白書」海外市場・米国の項も2004年より連続して執筆。

モデレーター

椎名ゆかり しいな ゆかり (翻訳者・東京藝術大学非常勤講師)

東京都出身。アメリカ・オハイオ州ボリンググリーン州立大学院ポピュラーカルチャー専攻修士課程修了。平成 23 年度から 25 年度まで文化庁芸術文化課でマンガの研究補佐員をつとめる。現在は海外マンガやマンガについての論文の翻訳を行う傍ら、海外における日本マンガについての記事も執筆。主な訳書に『ファン・ホーム ある家族の悲喜劇』(第 15 回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞受賞)、『ブラックホール』『デイトリップパー』(以上、小学館集英社プロダクション)、『メガトーン』『ピボチュール』(共に講談社)他。東京藝術大学非常勤講師。鳥取県主催「国際マンガコンテスト」審査員。

翻訳コンテスト公式ページ: http://otakumode.com/sp/mtb_fourth/

メディア芸術カレントコンテンツ: <http://mediag.jp>

メディア芸術に関するニュース・コラム・イベントカレンダーなど情報満載。



第7章 成果

7.1 まとめ

■各賞受賞者決定

- ・大賞：Monique Murphy 氏 (『いまどきのこども』)
- ・作品賞：Ronald Classman (『蝶のみちゆき』)
Jennifer Ward 氏 (『会社の奴には絶対知られたくない』)

■「授賞式・シンポジウム」来場者数：100人

(以下、内訳)

- ・事前申込者数：14人
- ・当日受付者数：4人
- ・関係者数：41人
- ・その他（名刺）：41人
- ・取材：1人

※スタッフや登壇者等を除く

■アンケート回収数：10枚 ※代表的な内容を「7.3」に記載。

■掲載メディア

※確認中。

第7章 成果

7.2 アンケート集計

参加者属性① 性別		
男	3人	30%
女	7人	70%

参加者属性③ 職業		
会社員	10人	100%
公務員	0人	0%
学生	0人	0%
主婦	0人	0%
フリーランス	0人	0%
大学生	0人	0%
高校生	0人	0%
アルバイト・パート	0人	0%
その他	0人	0%

参加者属性② 年齢		
～10代	0人	0%
20代	1人	10%
30代	5人	50%
40代	2人	20%
50代	2人	20%
60代	0人	0%

参加者属性④ 住まい		
東京	7人	70%
神奈川	2人	20%
愛知	1人	10%

シンポジウムの満足度		
とても満足	5人	50%
満足	5人	50%
どちらでもない	0人	0%
不満	0人	0%
とても不満	0人	0%

第7章 成果

7.3 アンケートコメント

- ・ 具体的な事例、現場の状況を聞いてよかった。
- ・ パネラーがPPTを切り替えられるポインターを持ったほうが進行がスムーズだったかもしれないと思った。
- ・ 運用手法の詳細がよくわかった。
- ・ 今後も続けてください。
- ・ 数字が少なく、翻訳クオリティとサイマルの重要性が見えづらかった。
- ・ 海外配信の売り上げ規模に関心がある。
- ・ 配信のあり方や、ローカライズの様子がよくわかった。
- ・ シンポジウムの内容はとても興味深かった。ロバートさんの話はあと1時間聞きたいくらいだった。
- ・ 日本の作品が海外ユーザー1人1人にどう思われているのかを知りたい。
- ・ 大きなスクリーンがあったので、シンポジウムでは、もっとどんどんスライドを使ってほしかった。
- ・ マンガ翻訳コンテスト自体はとても素晴らしい試みだと思います。応援しております。
- ・ 会場に実際の翻訳済み（海外展開済み）のマンガが展示され、自由時間に読める、などがあればよかった。
- ・ とても面白いシンポジウムでした。海部さんのプレゼンをもっと聞きたかったです。
- ・ 市場の調査にフォーカスした話をもっと聞きたかったです。
- ・ 「翻訳はマーケティングである」という言葉は印象に残りました。
- ・ 「翻訳」に関する内容の話題をもう少し聞きたかったです。
(翻訳の具体例などをもう少し具体的におうかがいしたいです。)
- ・ 具体的な翻訳事例を聞くことができてよかった。
- ・ このイベントをきっかけに、さらに日本のマンガが世界へ広がることを願っています。

7.4 総括

大賞、各作品優秀賞、計3名の受賞者を決定し、「海外に漫画を広めていく際に、不可欠となる優れた翻訳家の発掘、育成」という、「マンガ翻訳コンテスト」の目的の端緒を成すことができた。今後は、受賞者が、対象作品の版元とともに、対象作品の翻訳を成し、海外において翻訳版の配信を行うべく、また、受賞者がマンガ翻訳者として成長、成功するよう、デジタルコミック協議会内で引き続き可能なサポートを行ってゆくことになる。

コンテスト自体は、対象3作品がそれぞれ海外の言語で内容を表現するのが難しいなど、応募者にとっては例年以上に難易度が高いものとなった。しかし、それでも100名を超える応募者がそれぞれの力をいかんなく発揮し、質の高い応募がなされたことは、本コンテストが4回目を迎え、有能な翻訳志望者に一定の認知をされ、高いレベルでの競争につながったのではないかと考える。大賞受賞者含め、3名の受賞者の今後の活躍が期待される。

授賞式・シンポジウムについて、まずは授賞式では今回、大賞受賞者をアメリカから迎えることができ、こちらも全員揃った審査員3名と直接会い、審査について、翻訳のポイントについて、などを語り合う時間が持てたのも幸いだった。引き続いて行われたシンポジウムでは、実際に海外でマンガ翻訳版配信の現場最前線にいるパネラーから、具体的な例を含めプレゼンしてもらい、その後のディスカッション、質疑応答も、内容のあるものとなり、盛況のうちに終了することができた。告知から開催までの期間が短かったことなどもあるのだろうが、一般参加者、特に学生など若い人にもっと多く足を運んでもらいたかったが、告知方法含め、次回以降の課題のひとつだと思われる。

海外で受け入れられる可能性を持ちながら、様々な理由で、いまだ翻訳出版がなされていない作品は数多くある。「翻訳コンテスト」は今回で第4回を迎えたが、デジタルコミック協議会参加社の中でも、対象作品を出した出版社はまだ限られており、多くの出版社にとっては「翻訳コンテスト」をうまく活用できていないのも実情であろう。そして「翻訳コンテスト」だけでできることには限界もある。今後は「翻訳コンテスト」を更に有効なものに発展させていくと同時に、海外で受け入れられる可能性のある作品をいかに表に出していくか、海外出版・配信のノウハウのない多くの出版社にも、海外の出版社、配信プラットフォーム、そして翻訳者と接することができるようなシステムを構築していくことも必要である。次年度は「翻訳コンテスト」と「データベース」の整備を両輪として実施していきたい。

以上

本報告書は、文化庁の委託業務として、京都精華大学が実施した平成 27 年度「メディア芸術連携促進事業 連携共同事業」の成果をとりまとめたものであり、第三者による著作物が含まれています。転載複製等に関する問い合わせは、文化庁にご連絡ください。